

調査速報

外食需要動向（2021年10月）

コロナ感染が小康状態となり、外食需要は大きく持ち直した

主任研究員

佐橋 官

045-225-2375

sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2021年10月の1世帯あたり実質外食支出金額は全国が前月比38.5%増（前年同月比4.3%減）、関東地方が前月比37.8%増（前年同月比3.3%増）となった。
- 10月の外食産業売上高（名目値）は前年同月比0.5%減、コロナ禍前の2019年10月の売上高との比較も6.1%減となり、9月に比べて減収率が縮小（改善）した。
- 外食産業全体の客数はほぼ前年並みとなった（前年同月比1.6%減）。パブ・居酒屋業態の客数（同31.3%減）についても、相対的には落ち込みが大きいものの、9月以前と比べ大きく改善した。

1. 家計の実質外食支出金額は前月比で高い伸び

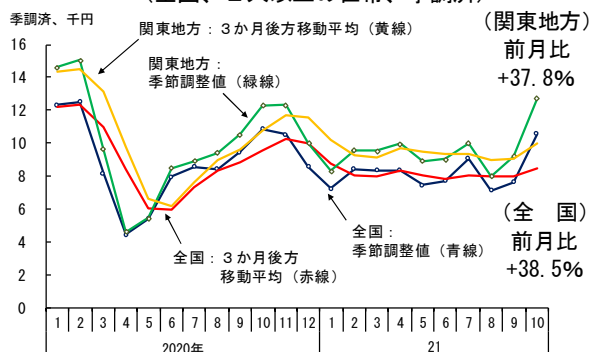
総務省「家計調査」に基づく2021年10月の1世帯あたり実質外食支出（用途別分類、2人以上の世帯、学校給食を除く、実質化および季節調整は浜銀総合研究所が実施）は、全国が前月比38.5%増（前年同月比4.3%減）、関東地方が前月比37.8%増（前年同月比3.3%増）となった（図表1）。新型コロナの新規感染者数が低水準で推移する中、人々の外出機会が増加し、人流が回復したことで、家計の外食支出も増加したとみられる。

2. 10月の外食産業売上高は減収率が縮小（改善）

一般社団法人日本フードサービス協会が発表した「外食産業市場動向調査」によると、10月の外食産業売上高（名目値）は前年同月比0.5%減と、ほぼ前年水準並みまで回復した（次頁、図表3）。行動制限が緩和されたことで客足が戻り（客数は9月の同7.0%減から同1.6%減へ改善）、売上高は2020年10月の「Go To Eat」キャンペーン実施時に近い水準となった。なお、コロナ禍による影響がなかった一昨年（2019年）10月の売上高と比較すると、今年10月の売上高は6.1%減となった（図表2）。2021年1月以降、外食産業売上高はコロナ禍前の水準を概ね2割程度下回る水準で推移していたが、10月はマイナス幅が大幅に縮小（改善）した。2019年10月は大型台風の本州上陸により外食産業売上高の水準が低かったことから、その分、19年の同月比でみた今年10月の変化率が実態以上に良化している側面はあるものの、前述の家計の外食支出動向と合わせて考えると、10月の外食需要が大きく持ち直したと評価することができよう。

図表1 実質外食支出金額は前月比で増加

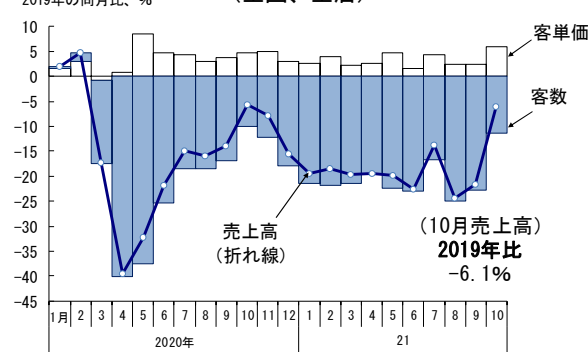
（全国、2人以上の世帯、季節調整）



注1：総務省「家計調査」の用途別分類「一般外食」。
注2：実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。
出所：総務省「家計調査」より浜銀総研作成

図表2 外食産業売上高は減収率が縮小（改善）

（全国、全店）



注1：全店とは、既存店と新規店の合計。
注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。
注3：売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。
注4：客数、客単価の2021年1月以降の2019年比の値は浜銀総研が算出。
出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

3. パブ・居酒屋の客数も9月の前年同月比74.7%減から、10月は同31.3%減に改善

10月の業態別の客数の状況をみると、ファストフードは前年同月比1.5%増と前年を上回る水準に回復した（図表3）。また、ファミリーレストラン（同7.3%減）、ディナーレストラン（同10.0%減）、喫茶（同5.4%減）など、ファストフード業態以外の業態でも客数の減少率が9月に比べて縮小（改善）しており、客足が徐々に戻りつつある。

行動制限の影響を大きく受けたパブ・居酒屋についても、客数は9月の前年同月比74.7%減から10月は同31.3%減へと大幅に減少率が縮小（改善）した。依然として他業態に比べて客数の落ち込み幅は大きいものの、行動制限が解除されたことの効果は大きかったとみられる。ただし、コロナ禍を契機として、都心の大手企業を中心にリモートワークの導入が進み、制度として定着しつつある。また、居酒屋チェーンの主要な顧客となっていた通勤客の会社帰りの飲食や多人数での会食、宴会等についても、コロナ禍を経て意識や行動が変化した可能性が高いとみられる。このまま、飲酒を伴う外食需要がコロナ禍前の水準まで回復するとは考えにくい。コロナと共存する方法を模索する中で、今後、飲酒を伴う都心繁華街での外食需要がどこまで戻るかは、注意して見守る必要があろう。

図表3 業態別の外食産業売上高（2021年10月、全国、全店）

業 態	店舗数	(増減率)					
		売上高		客数		客単価	
		前年比	2019年比	前年比	2019年比	前年比	2019年比
全 体	36,679	-0.5%	-6.1%	-1.6%	-11.4%	1.1%	6.0%
ファストフード	21,302	5.4%	7.5%	1.5%	-4.6%	3.8%	12.4%
洋 風	6,293	11.8%	22.2%	5.3%	0.8%	6.1%	21.0%
和 風	5,129	-1.9%	-0.4%	-1.0%	-5.4%	-0.9%	5.1%
麺 類	3,192	-4.5%	-13.5%	-4.9%	-17.2%	0.4%	4.8%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,302	5.9%	1.8%	3.1%	-2.2%	2.8%	3.9%
その他	2,386	2.5%	-1.8%	-1.9%	-10.2%	4.4%	8.7%
ファミリーレストラン	10,154	-6.5%	-15.9%	-7.3%	-19.7%	0.9%	6.3%
洋 風	5,005	-7.1%	-21.5%	-7.5%	-22.8%	0.4%	2.6%
和 風	2,518	-11.3%	-20.7%	-11.0%	-24.4%	-0.3%	5.6%
中 華	1,165	-0.1%	-1.4%	-2.8%	-9.1%	2.8%	9.7%
焼き肉	1,466	-3.3%	0.4%	-4.7%	3.7%	1.5%	1.4%
パブ・居酒屋	2,110	-30.8%	-53.5%	-31.3%	-55.5%	0.8%	-0.9%
パブ・ビアホール	534	-22.8%	-58.3%	-23.8%	-57.9%	1.3%	-1.6%
居酒屋	1,576	-35.1%	-49.7%	-36.0%	-56.4%	1.5%	-1.3%
ディナーレストラン	1,090	-10.1%	-26.0%	-10.0%	-30.7%	-0.1%	3.3%
喫茶	1,783	-3.5%	-23.1%	-5.4%	-29.3%	2.1%	7.9%
その他	240	2.0%	-14.2%	-2.0%	-15.1%	4.1%	2.4%

注1：全店とは、既存店と新規店の合計。

注2：売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。

注3：売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。

注4：客数と客単価の2019年比の値は浜銀総研が算出。

出所：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。